

平成30年12月19日

秩父市議会議長 木村隆彦様

文教福祉委員長 赤岩秀文

文教福祉委員会行政視察報告書

- 1 期 日 平成30年10月2日（火）～4日（木）
- 2 視察先 山形県新庄市、置賜広域病院企業団、福島県郡山市
- 3 参加者 委員長 赤岩秀文 副委員長 堀口義正
 委員 金崎昌之 委員 桜井均
 委員 笠原宏平 委員 小櫃市郎
- 4 視察目的
山形県新庄市 「新庄まつりの山車行事」

○ 市の概要

日本三大急流として知られている最上川沿いに位置し、奈良時代より舟運により太平側と日本海側を結ぶ物資輸送の要衝として奈良時代より栄えてきた。

明治期においても陸路である国道13号と国道47号が交差するとともに、鉄道も新庄市を起点に交差しているため栄え続けてきた。近年にあつては東北新幹線の延伸、高速道路の敷設により首都圏および近隣市町村との交流が進んでいる。

このような都市基盤を土台に質の高い都市機能と快適性、利便性に秀でた居住空間を整備し、都市の賑わいや文化的な生活と、自然の豊かさや雪とともにある暮らしを味わう事のできる「田園都市」を目指しまちづくりをすすめている。

○ 事業の概要

国指定の無形民俗文化財である新庄まつりは、新庄市と最上郡内総出の祭となっている。幼稚園、小中高校、企業、開業医などのほとんどが祭期間休業となる。

新庄まつりは年々来場客が増え、現在では50万人を超えるようになったことから、行政のかかわり方、多額な補助金(2500万円)、警備のあり方、祭は誰のものなのかなどの、ハード・

ソフト両面の問題に直面している。

そのような中であっても、諸問題の解決を図るべく「新庄まつり百年の大計」を策定し、祭来場者 100 万人を目指している。



置賜広域病院企業団 「公立置賜総合病院」

○ 病院の概要

置賜広域病院企業団は、山形県南部に位置する長井市、南陽市、川西町、飯豊町と山形県により構成される公立の総合病院で、診療科 23 科、一般病床 450 床、第二種感染症病床 4 床、精神病床 46 床、救急救命センター 20 床を有している。

「心かよう信頼と安心の病院」を理念に掲げ、患者本位の医療の展開、高度救急医療の提供、健全経営の確保、人材の育成、地域医療連携の推進、快適な療養環境と働きやすい職場環境の整備等を方針として病院運営をすすめている。

○ 事業の概要

この病院を運営する自治体にはかつてそれぞれ公立病院を有していたが、自治体財政の悪化や、深刻な医師不足、類似病院を個々に経営する非効率性、高度医療提供体制整備の期待など共通する問題を抱えていた。平成 7 年に置賜広域病院組合を設立し、医療圏の中心となる総合病院の設立と既存の公立病院の再編の準備を進めた。平成 12 年に置賜広域病院企業団公立置賜総合病院を基幹病院として開設し既存の公立病院をサテライト医療施設化した。

病院機能の分担としては基幹病院で急性期医療と高度医療を行い、サテライト医療施設では初期医療と慢性期医療を行う。また病床数の見直しを行い約 130 床の削減を行った。このことにより、地域医療連携体制の強化や、経営の効率化、人材の確保、人材の育成、雇用の創出、地域経済活性化等の効果が出る事となった。



この病院の所在地は国道 113 号線と国道 287 号線が交差する付近にあり、関係する自治体のほぼ中央である、また広大な空き用地が隣接しているため今後、医療・住宅・商業等が融合したメディカルタウンを形成し 400～500 人の定住人口を目指している。

福島県郡山市 「地域を生かした教育環境パワーアップ事業」

○ 市の概要

福島県安積平野の平坦地を中心に、東に阿武隈高地、西に猪苗代湖、北は安達太良山と自然が豊かで市街地には阿武隈川が流れる水と緑に恵まれた広域都市である。

また東北本線、磐越東西線、水郡線、東北新幹線の鉄道網や、東北自動車道、磐越自動車道などの高速道路、福島空港に隣接するなど交通の要衝となっている。

○ 事業の概要

郡山市では「教育環境日本一のもと、郷土を愛し、学ぶ意欲に溢れ、たくましく未来を拓く郡山の子どもたちの育成」を理念に掲げ、大きな二本の柱（特色ある学校づくり推進事業、学校支援地域づくり事業）からなる地域を生かした教育環境パワーアップ事業を展開している。

特色としては各中学校区に地域コーディネーターを配置し、学校からの要望を受けて地域人材をコーディネートし協同事業（体験活動）を実施。学校内においては一例として国語科（民話を聞く会、書初め教室）総合科（和紙漉き体験、地歌舞伎化粧体験）生活科（押し花教室）などの体験活動が実施されている。また学校外においては地域人材として郡山市に所在する大学から学生を招き、放課後学習会、夏休み学習会、科学実験教室、鼓笛演奏指導などを実施。児童生徒の学習内容の深まりと学習意欲の向上が図られた。

今年度は一億総活躍社会の実現と地方創生を推進するため各学校を核にさらなる地域住民の参画や地域の特色を生かした事業を展開し、まち全体で地域の将来を担う子ども達を育成する目的で、「学校を核とした地域力強化プラン」を策定し、予算化している。



【 公立置賜総合病院の取組み 赤岩秀文 】

この病院は長井市、南陽市、川西町、飯豊町、山形県で構成される置賜広域病院企業団で運営されている。診療科23科、病床数は一般、精神、救急併せて520床を有している。

この医療圏の自治体は4件の公立病院、診療所を有していたが、自治体財政の悪化や、深刻な医師不足、類似病院を個々に経営する非効率性など共通する問題があった。平成12年に置賜広域病院企業団公立置賜総合病院を基幹病院として開設し既存の公立病院をサテライト医療施設化した。病院機能の分担としては基幹病院で急性期医療と高度医療を行い、サテライト医療施設では初期医療と慢性期医療を行っている。

当市においては、公立病院は少ないものの民間の医療機関はそれぞれ機能している。今現在でも官民医療連携は進んでいるものの今後の展開を考えるとより密接な連携が必要となる。置賜医療圏では官民医療連携を進めるためICTを活用した診療情報共有システムが医師会の協力を経て機能している。また登録医制度により救急救命センターの一部を活用し開業医の医師が救急当番医を務める事業が積極的に行われている。当市においても導入を検討すべきと考える。

またこの病院の立地は主要道路が交差する付近にあり、広大な空き用地が隣接しているため今後、医療・住宅・商業等が融合したメディカルタウンを形成し400～500人の定住人口を目指している。このような新たな街を形成することは雇用の創出と交流人口の増加を望めるため当市においても検討を願いたい。

【 行政視察で感じたこと 堀口義正 】

新庄まつりは、山車20台、町衆の若連によって毎年様々な趣向を凝らし歌舞伎やお伽話を再現したものが造作される。お囃子は、近隣の住民17か所、宵祭り、本祭り、後祭りの3日間、最上郡内の幼稚園・保育所・小・中・高等学校は全休となり市民全員参加である。

誘客者数は3日間約49万人、将来は、誘客人数100万人構想とのこと、誘客への取組み方、祭り期間中の市内教育施設の全休、トイレなど観光客への対応面で参考になった。

公立置賜総合病院は、山形県内4二次保健医療圏の一角を担う基幹病院、救急救命センター併設、圏内にサテライト医療施設3か所包括、高度医療が確立し地域医療連携体制が整った企業団。患者の医療情報を複数の施設で参照・共有できるOKI-net（置賜地域医療情報ネットワーク）が構築され医療連携が整備。救急救命センターでは、管内医師会の協力で、平日夜間の協働診療を実施、また、医師、看護師の確保は、奨学金制度を有効に活用し就労に繋げていることなど、秩父市の今後の課題であり大変良い勉強になった。

郡山市は、「地域を生かした教育環境パワーアップ事業」を展開、新しい時代への対応、産学官連携等の推進で市内にある4大学学生ボランティア協定など、大学との互惠関係、中学校区ごとの地域コーディネーター制度の活用、全小中・義務教育学校の児童生徒を対象に、学校や公民館施設で希望者への学習支援・学校外の教育活動支援を実施、多くの児童生徒が学ぶ喜びを感じ、学習意欲が向上してきているとの評価であり、学校と地域との連携が地域教育力向上に繋がったとのこと。今後の当市教育行政の研究課題でもあり参考になった。

【おきたまモデル 金崎昌之】

今は休止している市民満足度調査だが、過去7回の調査結果を見ると、市立病院の充実や医療体制の整備は、いずれも重要度は高いのに満足度が低いという結果を示しており、その充実が市民の悲願となっている。実際、秩父二次医療圏の脳卒中死亡率は、全国344医療圏の中で44番目と大変高く、高齢化人口の著しい増加の中で、その対策は一層急務となっている。なぜ、秩父地域の脳卒中死亡率が高いのか。寒暖の激しい気候や塩分の多い食生活など、いくつかの理由が挙げられると思うが、私は、重篤な脳卒中患者を適切に治療できる病院が医療圏内に無いため、1時間余をかけて熊谷や飯能方面へと患者を搬送せざるを得ないという事情が、脳卒中の死亡率を引き上げている大きな要因だと思っている。では、こうした危機的な状況に陥り、出口の見えない地域医療の現状をどうしたら再生できるのか。

そのヒントを今秋、人口わずか1万5千人足らずの小さな町に見た。ここ、山形県川西町の公立置賜総合病院は、医師不足や自治体の財政難に伴う「医療過疎」に悩む置賜二次医療圏にある2市、2町が中心となり、県と伴に平成12年に設立した公立病院で、自治体病院の広域再編モデルとされる。救命救急センターが設けられ、救急患者をいつでも受け入れることのできる心強い病院だ。病院長は、私の投げた「全国的に医師の過重労働が問題になっているが」という変化球に、こう答えた。「超過勤務軽減対策を行っているが、本質は医師不足にある。そのためにも医師が集まる病院、指導医がいる病院を目指している」と。なるほど、患者にとって良い病院は医師にとっても魅力的な病院なのだと、妙に納得した。

【山形県新庄市・川西町を視察訪問 桜井均】

10月2日は山形県新庄市、3日は山形県川西町を訪問した。

新庄市では、秩父祭と同じ「山・鉾・屋台行事」のユネスコ無形文化遺産に登録された『新庄まつり』を視察。観光客100万人を目指しているこの祭りは山車（やたい）20台が新庄駅前を中心に市内を曳きまわす。秩父市では今年度より「文化に親しむ日」とする条例が策定され、12月3日は秩父市内の公立幼稚園・保育園、小中学校は休園・休校となったが新庄市では条例はなく、新庄市内幼稚園・保育園（公私関係なく）、小中学校、高校、企業、開業医までが祭りの行われる8月24日～26日は各責任者の下で休みとなっている。小さい子から大人までもが参加し地域総出で開催されていることは凄いことだと感じた。

2日目の川西町では公立置賜総合病院に伺った。2市2町と山形県が出資し23科13専門部あるこの病院はサテライト医療の基幹病院として開院し公立置賜長井病院・公立置賜南陽病院・公立置賜川西診療所・飯豊町国民健康保険診療所と医療提供体制を構築している。サテライト方式にすることで地域医療連携が強化、経営の効率化、人材の確保や育成、雇用創出・地域経済への波及効果が期待される。また、川西町では病院周辺の土地利用として「メディカルタウン構想」を形成している。

秩父市も4町と定住自立圏を協定しているので救急医療の取り組みとしては大いに参考になるのではないかと思う。

【 文 教 福 祉 委 員 会 行 政 視 察 報 告 笠 原 宏 平 】

今回の文教福祉委員会の視察は、山形県新庄市・山形県公立置賜総合病院・福島県郡山市の3ヶ所であった。

新庄市の視察については、2016年12月に当市の「秩父祭の屋台行事と神楽」と共に「新庄まつりの山車行事」でユネスコ無形文化遺産に登録された祭りについて視察を行った。新庄まつりは毎年8月24・25・26日に開催されており、山車の数は現在20台で3日間の為に住民の手作りで毎年作成され、終了後は歌舞伎部門・物語部門があり入賞をした3台を残し全て壊してしまう。市民総出で3日間町を練り歩き、最上郡内の幼稚園・保育所、小中学校・高校はすべて休みとなり、企業や開業医等もほとんどが休業となる。課題もあり、観光客数が増えているため、山車の大きさ、運行ルート、警備員の増員、観覧場所の増設等の見直し、若連・曳き手の減少、後継者の育成、また事務局の人手不足や業務量の増加などが課題になっているとのこと。また、経費や業務の増加などがある。しかしながら年々観光客が増えて盛り上がっていることは、町としては嬉しい悲鳴に聞こえた。

公立置賜総合病院では、4町の広域病院として今までであった公立病院をサテライト化し総合病院を作って成功したものであった。

郡山市では教育に関して教育委員会の取り組みで、地域・民間との連携による教育環境日本一を目指すとし「地域を生かした教育環境パワーアップ事業」というものを行っており取り組み内容の説明を聞き、当市との規模の大きさ・環境等、地域差の違いを感じた。

【 文 教 福 祉 委 員 会 行 政 視 察 報 告 小 櫃 市 郎 】

置賜広域病院は長井市、南陽市、川西町、飯豊町の2市2町と山形県により構成される広域病院である。設立の経緯として、それまで各市町の病院や診療所をもって地域医療にあたってきたが、自治体財政の厳しい逼迫状況、深刻を極める医師不足、同じような病院を個々に経営する非効率性、高度医療提供体制整備への期待などから平成12年に開院となった。

既存病院・診療所ををサテライト化した医療提供体制を構築し、再編前は3病院、1診療所で812床だったものを、再編後は基幹病院として公立置賜総合病院、救命救急センター、サテライト医療施設として2病院2診療所の合計680床とし、132床の減床を図った。基幹病院では急性期・高度医療を行い、サテライト医療施設では初期・慢性期医療を行うことを目的としている。再編後、病床数は16%減少したが、患者数は4.9%増加し、経営の効率化が図れたとのこと。100人程度の職員の増員により、雇用創出や地域経済への波及などの効果もあった。今後、置賜地域の総人口は減少し、高齢者割合が増加し、疾病構造も変化することが考えられるため、さらに550床まで減少させる計画であるとのこと。

医師の確保については、研修制度や自身のスキルアップを重要視しており、既存の病院や診療所では最新の施設の導入、確保に難があったが、現在は大学から公立置賜広域病院へ研修させたいとの評価を得ており、病院設立の成果をあげているという。

公立置賜総合病院設立は単独ではなしえず、県からの補助や職員派遣などの協力も得て実現したものであるが、今後の秩父地域の医療連携強化のために、大変参考になった。